

令和元年 12月24日



名古屋港管理組合

令和元年名古屋港港湾統計年推計

記者会見資料について

令和元年名古屋港 10大ニュース

本日、会見発表しました標記の件につき、資料をお送りいたします。

(この紙を含めず 14 枚)

お問い合わせ先

港湾統計年推計

企画調整室統計センター（担当：長谷川・久米）

TEL 052-654-8019

10大ニュース

総務部広報・にぎわい振興担当（担当：小島・渡邊）

TEL 052-654-7957

令和元年名古屋港港湾統計年推計

入 港 船 舶		令和元年年推計値	平成30年実績	前年比(%)
総 数	隻数(隻)	32,500	33,404	97.3
	総トン数 (千総トン)	234,100	237,614	98.5

取 扱 貨 物 量		令和元年年推計値	平成30年実績	前年比(%)
総取扱貨物量 (千トン)		195,000	196,593	99.2
内 訳	外貿貨物	127,000	129,649	98.0
	内貿貨物	68,000	66,944	101.6
コンテナ総取扱個数 (千TEU)		2,834	2,876	98.5
内 訳	外貿コンテナ	2,644	2,700	97.9
	内貿コンテナ	190	177	107.3

平成 30 年 までの 最 高 記 録

入 港 船 舶 隻 数	72,521 隻	昭和44年
船 舶 総 ト ン 数	241,783,906 トン	平成19年
総 取 扱 貨 物 量	218,130,496 トン	平成20年
外 貿 貨 物 量	140,611,794 トン	平成25年
内 貿 貨 物 量	80,685,587 トン	平成19年
コンテナ総取扱個数	2,896,221 TEU	平成19年
コンテナ個数(外貿)	2,699,626 TEU	平成30年
コンテナ個数(内貿)	257,774 TEU	平成19年

※ 内貿コンテナは平成10年より集計開始

問合せ先
名古屋港管理組合企画調整室統計センター
担当:長谷川、久米(TEL:654-8019<内線2923>)

令和元年名古屋港港湾統計年推計

令和元年名古屋港港湾統計の年推計は以下のとおりとなりました。

入港船舶の総数は、内航船で、R O / R O 船等が増加しますが、外航船で、一般貨物船等が減少し、隻数は 3 万 2,500 隻（前年比 2.7%減）と減少し、総トン数は、外航船で、フルコンテナ船等が減少し、2 億 3,410 万総トン（同 1.5%減）と前年より減少する見込みです。

総取扱貨物量は、外貿貨物が 1 億 2,700 万トン（同 2.0%減）となり、輸出で完成自動車等が増加しますが、輸入でL N G（液化天然ガス）等が減少し、前年より減少となる見込みです。内貿貨物は 6,800 万（同 1.6%増）トンとなり、完成自動車等が移出入で増加し前年より増加する見込みです。全体では 1 億 9,500 万トン（同 0.8%減）となり、18 年連続で日本一を堅持する見込みです。

また、外貿コンテナ取扱個数については、264 万 TEU（前年比 2.1%減）となり、昨年同様全国第 3 位となる見込みです。

令和元年（2019年）名古屋港10大ニュース

【物流関連】

- ◎ 総取扱貨物量18年連続日本一へ
- ◎ 持続的発展に向けた物流の取組強化へ
～ NUTS second 開発着手など ～
- ◎ LNGバンカリングの普及に向けて官民が施策を推進
～ 全国初のインセンティブ創設・名古屋港初のLNGバンカリング実証実験 ～

【防災・危機管理関連】

- ◎ 伊勢湾台風襲来から60年
～ 水防訓練を始めとした様々な企画を実施 ～
- ◎ 相次ぐ台風接近に伴う高潮・暴風対策
～ フェーズ別高潮・暴風対応計画の取りまとめなど ～

【親しまれる港づくり関連】

- ◎ 名古屋港水族館、にぎわい好調
～ 開館以来の入館者5,000万人突破、日本動物園水族館協会通常総会開催 ～
- ◎ 世界一周クルーズ「サン・プリンセス」・南極観測船「しらせ」・帆船「海王丸」寄港でガーデンふ頭にぎわう
- ◎ 新舞子マリンパーク風力発電所2号機再稼働
- ◎ 中川運河に新たなにぎわい施設が誕生
～ バーミキュラ ビレッジ オープンなど ～

【国際交流関連】

- ◎ ロサンゼルス港姉妹港提携60周年

総取扱貨物量 18年連続日本一へ

令和元年の名古屋港港湾統計の推計値がこのほどまとまった。

総取扱貨物量は、1億9,500万トンと、18年連続で日本一を堅持する見込みとなった。

また、外貿コンテナ取扱個数は、264万TEUとなり、全国第3位の見込みとなった。

外貿貨物では輸出で完成自動車等が増加したものの、輸入でLNG（液化天然ガス）等が減少し、前年より減少となる見込み。

貨物の内訳では、背後地域の産業構成を反映して、完成自動車、自動車部品、産業機械の輸出と、LNG、鉄鉱石、原油、石炭などの産業及び暮らしを支える原材料の輸入が大きなウェイトを占める。

取扱貨物量	令和元年推計値	平成30年実績	前年比（％）
総取扱貨物量 （千トン）	195,000	196,593	99.2
外貿コンテナ取扱個数 （千TEU）	2,644	2,700	97.9

持続的発展に向けた物流の取組強化へ

～ NUTS second 開発着手など ～

名古屋港では平成29年度より「飛島ふ頭地区ふ頭再編改良事業」、また、昨年度より「金城ふ頭地区ふ頭再編改良事業」の工事に着手しているが、更に持続的な発展に向け、様々な物流への取組を進めている。

飛島ふ頭南コンテナターミナルでは、名古屋四日市国際港湾株式会社が、ガントリークレーン1基を船舶の大型化に対応した20列対応に更新、12月から供用を開始した。これにより、同ターミナルのガントリークレーン6基のうち3基が20列対応となり、コンテナターミナルの機能強化が進んでいる。

また、名古屋港運協会は、全コンテナターミナルを一元管理する名古屋港統一ターミナルシステム（NUTS）が導入から20年を迎えることから、AIやIoT技術を積極的に導入した次世代コンテナターミナルのオペレーションシステム（NUTS second）の構築を目指すとし、本年より開発に着手した。

このような中、名古屋港利用促進協議会は8月、名古屋港のコンテナターミナル等の各施設への並び始めからゲートアウトまでの平均所要時間が7分～27分と、高い効率性を有しているとの調査結果を発表した。こうした結果は、「名古屋港統一ターミナルシステム（NUTS）」による荷役作業の効率化や処理時間の短縮化、「集中管理ゲート」による飛島ふ頭各ターミナルのゲート処理の効率化などによるもので、背後のものづくり産業のサプライチェーンの生産性向上の一助となっている、との考えを示した。

鍋田ふ頭コンテナターミナルにおいては、名古屋ユナイテッドコンテナターミナル株式会社（NUCT）が応募した「名古屋港鍋田ふ頭コンテナターミナル遠隔操作RTG導入事業」が、国の採択事業として全国で唯一決定。令和5年3月を目標に、遠隔操作RTG40基を導入していく予定である。

これからも名古屋港は、コンテナ物流の更なる効率化や完成自動車取扱機能の集約・拠点化、船舶の大型化への対応を引き続き進めていく。

LNGバンカリングの普及に向けて官民が施策を推進

～ 全国初のインセンティブ創設・名古屋港初のLNGバンカリング実証実験 ～

名古屋港管理組合では、重点施策として掲げる「港湾活動のグリーン化」を目指し、LNGバンカリング拠点の形成に向けた支援として、全国初となるLNG燃料船及びLNG燃料供給船の入港料を全額免除する、インセンティブ制度を4月1日に創設した。

本制度は、伊勢湾・三河湾におけるLNGバンカリング拠点の形成を図るため、四日市港管理組合及び愛知県（三河湾）と連携して取り組んでおり、サプライチェーン全体の環境負荷低減に努める企業ニーズに対応するとともに、さらなる物流の利便性向上・競争力強化を図り、選択される港湾として港湾機能の維持・拡充に努めていく。

11月8日には、東邦ガス㈱と㈱商船三井による実証実験が行われ、燃料となるLNGを東邦ガス㈱の知多緑浜工場から、LNGタンクローリーを用いて輸送し、LNG燃料タグボート「いしん」へのLNG燃料供給作業が行われた。名古屋港では今回が初めてであり、LNG燃料の供給が安全に実施できることが確認された。

名古屋港としても、今回の実験を契機に、その候補地として注目を集め、バンカリング拠点としても利用が進むことを期待している。

伊勢湾台風襲来から 60 年

～ 水防訓練を始めとした様々な企画を実施 ～

本年は伊勢湾台風襲来から 60 年の節目にあたることから、過去の災害について学び、名古屋港の防災について理解を深めていただくために、様々な取組を行った。6 月 17 日に名古屋市交通局との連携による水防訓練をガーデンふ頭及び地下鉄名古屋港駅で行った。本組合は、高潮による市街地への被害を防ぐために防潮扉の閉鎖訓練を実施後、参加した地域住民に名古屋港の防災施設を紹介した。また、7 月 22 日から 9 月 27 日まで、企画展示「伊勢湾台風を振り返って」を本組合情報センターなどで開催。更に 9 月 12 日には「みなと防災体験ツアー 2019」をガーデンふ頭で行った。ツアーでは、防潮扉開閉デモンストレーションや開閉体験、名古屋検潮所の見学、名古屋港の防災説明などを行い、参加者の防災意識を高める企画となった。

また、名古屋港ポートビル内の名古屋海洋博物館において、7 月 20 日から 9 月 29 日まで、伊勢湾台風 60 年企画展「古地図から学ぶ尾張の歴史～名古屋港から防災を考える」を開催（主催：（公財）名古屋みなと振興財団）した。企画展では、古地図や歴史資料を用いて、災害という観点でこの地域の特性を読み解くとともに、映像で伊勢湾台風を振り返り、災害への備えを紹介する展示を行った。

相次ぐ台風接近に伴う高潮・暴風対策

～ フェーズ別高潮・暴風対応計画の取りまとめなど ～

昨年の台風 21 号による大阪港、神戸港の被害、今年 of 台風 15 号による横浜港の被害など、近年、港湾において台風の被害が相次いでいる。名古屋港においては、大きな被害が出ていないが、台風 10 号・19 号が接近した際には、非常配備体制を敷いて対応した。

本組合は高潮・暴風対策として、平成 30 年 3 月に国土交通省が策定した「港湾の堤外地等における高潮リスク低減方策ガイドライン」を踏まえ、港湾管理者として想定される標準的な防災行動について、あらかじめ時系列的に整理した「フェーズ別高潮・暴風対応計画（名古屋港管理組合）」を 4 月に取りまとめた。

さらに、ハード対策として、高潮に伴う完成自動車等の貨物が海上へ流出することを防止するための柵等の設置を進め、また、特に完成自動車の取扱いが多い金城ふ頭においては、名古屋市と連携し、市営の立体駐車場を活用した流出対策を行っている。

名古屋港水族館、にぎわい好調

～ 開館以来の入館者5,000万人突破、日本動物園水族館協会通常総会開催 ～

名古屋港水族館は、3月にリニューアルオープンしたウミガメ回遊水槽や寿司にスポットを当てた特別展「寿司ネタ大集合～水族館が斬る！寿司のいろいろ～」(3月16日～6月2日)がメディアで話題を呼び好評を得た。現在は、新たな特別展「カラフルコレクション～絢爛華麗な水の生き物たち～」(7月13日～令和2年1月19日)を開催している。

8月には、平成4年10月の開館以来の入館者が5,000万人を突破し、本年度上半期の入館者数は、歴代3位となる136万人となり、にぎわいを見せている。

また、5月28日、29日、秋篠宮皇嗣殿下ご臨席の下、名古屋観光ホテルで「2019年度公益社団法人日本動物園水族館協会通常総会」が行われた。「『いのちの博物館』動物福祉 その学びと教育」をテーマにした今回の通常総会は、平成6年以来25年ぶりに名古屋港水族館が開催館となり、当水族館の視察も行われた。

世界一周クルーズ「サン・プリンセス」・南極観測船「しらせ」・帆船「海王丸」寄港でガーデンふ頭にぎわう

ガーデンふ頭にさまざまな船が来港しにぎわった。クルーズ船「サン・プリンセス」は、4月から7月までの98日間、20ヶ国31の寄港地を巡る世界一周クルーズを実施し、日本発着世界一周クルーズの名古屋港初寄港となった。寄港時には名古屋港お知らせ隊長「ポータン・ミータン」によるグリーティング等の歓迎行事が行われた。

10月には、南極観測船・砕氷艦「しらせ」が2年ぶりに寄港。入港時には、地元園児たちによるお出迎えや入港歓迎式典等が行われ、艦内一般公開には約1万2千人が来場した。

11月には、練習帆船「海王丸」が寄港し、実習生と触れ合いながら船内見学ができる一般公開には約4千人が訪れた。

いずれのイベントも家族連れを中心に大勢の人でにぎわった。

また、ガーデンふ頭3号岸壁においては、7月に延伸部分の供用を開始。今後も引き続き、老朽化対策や乗客の利便性向上に向けた取組を進めていく。

新舞子マリンパーク風力発電所2号機再稼働

新舞子マリンパーク風力発電所の2基の発電設備のうち、故障により停止していた1基の補修作業が、令和元年11月11日に完了し再稼働した。

新舞子マリンパーク風力発電所は、平成17年の供用開始から約3,100万kWhを発電し、約14,000トンの温室効果ガス（CO₂）の削減に貢献している。

再稼働を受け、大村秀章管理者は、「多くの県民・市民が集う新舞子マリンパークの象徴となるとともに、名古屋港の再生可能エネルギー設備の先導的役割を今後も担っていく。」とコメントを発表した。

中川運河に新たなにぎわい施設が誕生

～ バーミキュラ ビレッジ オープンなど ～

名古屋港と都心を結ぶ中川運河では、これまでの水運物流の歴史や役割を尊重しつつ、魅力ある水辺の空間を創出し、憩いやにぎわいをもたらす運河への再生を図ることを目的とした取組を進めている。この取組の中で、中川運河沿岸用地において、民間事業者から事業提案募集を行っており、12月3日には愛知ドビー株式会社によるブランド体験型複合施設「VERMICULAR VILLAGE（バーミキュラ ビレッジ）」がオープンした。

「VERMICULAR VILLAGE」は、飲食と物販・体験の2つのエリアで構成され、中川運河を望むバーミキュラ創業の地で、さまざまな料理やメイド・イン・ジャパンのものづくりなど「最高のバーミキュラ体験」が提供される。

また、岡谷鋼機株式会社は、昭和9年から中川運河沿いに立地している中川配送センター（中川倉庫）について、老朽化対策及び耐震性強化に合わせ、歴史的価値の高い倉庫等の景観を維持・保存したいという地域からの要望にも応えるため、昭和9年竣工時の外観を再現して建て替えを行い、12月2日に完成した。

中川運河では今後も、周辺地域の状況を踏まえつつ、段階的な誘致を進めていく。

ロサンゼルス港姉妹港提携 60 周年

名古屋港とロサンゼルス港は姉妹港提携 60 周年を迎えた。8 月 7 日にロサンゼルス港で開催された記念式典には、ロサンゼルス港のリー港湾委員長、名古屋港管理組合議会渡辺議長を始めとした両港の関係者が出席し、名古屋港を代表し、渡辺議長からメッセージの贈呈と記念品の交換を行うとともに、引き続き両港の交流を深めていくことを確認した。

また、名古屋港では、10 月 15 日の名古屋港利用者懇談会で、ロサンゼルス港のセロカ港湾局長による講演会も行われた。

両港はともに 1907 年（明治 40 年）に開港。1959 年（昭和 34 年）に結ばれた名古屋市とロサンゼルス市の姉妹都市提携と同時に、名古屋港として初の姉妹港提携をロサンゼルス港と結んだ。以降の定期的な交流や情報交換等は両国を代表する主要港湾間の友好関係を深めつつ、経済の活性化や両港の利用拡大に貢献している。

【物流関連】

総取扱貨物量18年連続日本一へ



持続的発展に向けた物流の取組強化へ



12月に供用を開始したガントリークレーン1号機

LNGバンカリングの普及に向けて官民が施策を推進



LNG燃料タグボート「いしん」へのLNG燃料供給作業

【防災・危機管理関連】

伊勢湾台風襲来から60年



水防訓練による防潮扉閉鎖

相次ぐ台風接近に伴う高潮・暴風対策



閉鎖時の堀川口防潮水門

【親しまれる港づくり関連】

名古屋港水族館、にぎわい好調



3月にリニューアルオープンしたウミガメ回遊水槽

世界一周クルーズ「サン・プリンセス」・南極観測船「しらせ」・帆船「海王丸」寄港でガーデンふ頭にぎわう



新舞子マリナパーク風力発電所2号機再稼働



本年5月撮影

中川運河に新たなにぎわい施設が誕生



バーミキュラ ビレッジ

【国際交流関連】

ロサンゼルス港姉妹港提携60周年



リー港湾委員長と渡辺議長

※各写真はデータでも提供可能です。

kouhou@union.nagoyako.lg.jp

名古屋港管理組合広報・にぎわい振興室までご連絡ください。